

# 答 申 書

令和8年1月19日

九戸村長 大久保 勝彦 殿

九戸村立小・中学校建設用地検討委員会  
委員長 狩 野 徹

「持続可能で良質な教育環境」整備に向けた、最適な建設用地について（答申）

令和7年8月21日付九村推第440号で諮問のありましたこのことについて、本委員会において慎重に審議を重ねた結果、下記のとおり答申します。

記

## 1. 答申の結論

「持続可能で良質な教育環境の整備に関する指針」（令和4年11月策定）に基づき、令和11年度を目途とした小中一貫校または義務教育学校の開校に向けた建設用地として、以下の候補地を選定しました。

なお、委員会としては、将来の村づくりや教育環境への効果、および実現可能性を総合的に勘案し、以下のとおり提案します。

候補地名称： 九戸中学校敷地

候補地名称： 伊保内地区（町裏等の農地を含む）

## 2. 検討の経過

本委員会は、学識経験者、保護者代表、各種団体代表、および公募委員等で構成され、計6回にわたり、村の現状と課題、候補地の抽出、および各候補地のメリット・デメリットについて多角的な視点から検討を行いました。

- 第1回（令和7年8月21日）： 諮問事項の確認、現状と課題の共有
- 第2回（令和7年9月22日）： 建設用地候補地の抽出
- 第3回（令和7年10月27日）： 建設用地候補地の絞込みについて
- 第4回（令和7年11月10日）： 候補地に係るメリット・デメリットについて
- 第5回（令和7年12月1日）： 建設用地候補地の選定について
- 第6回（令和7年12月15日）： 建設用地候補地答申について

### 3. 候補地の評価と選定理由

検討の過程において、主要な候補地として「九戸中学校敷地」と「伊保内地区（町裏等）」の2案に集約されました。それぞれの評価は以下の通りです。

#### ○ 九戸中学校敷地

##### 【主な評価点】

- **実現性とスピード**： 村有地であるため新たな用地取得の必要がなく、費用と時間を大幅に抑制でき、早期の開校目標を確実に達成できる可能性が高い。
- **敷地環境**： 岩手県内でも有数の広大な敷地を有しており、小中合同のグラウンドや野球場など、十分な教育施設を配置する自由度が高い。
- **防災性**： 高台に位置しており、水害等の災害リスクに対して安全性が高い。
- **農地保全**： 既存敷地の活用であるため、「農業立村」を掲げる本村において貴重な農地を転用する必要がない。

##### 【課題点】

- **通学環境**： 村の中心部から離れており、伊保内地区を含む多くの児童生徒がスクールバス通学となる。徒歩通学者の減少や、部活動後の帰宅等の利便性に課題が残る。
- **まちづくりとの連携**： 学校を中心としたコンパクトシティ構想等の将来的なまちづくりとの連携が図りにくい。

#### ○ 伊保内地区（町裏等の農地を含む）

##### 【主な評価点】

- **教育環境と地域連携**： 村の中心部に位置し、伊保内地区の児童（約半数）が徒歩通学可能となる。登下校時の地域住民による見守りや、地域と連携した教育活動が展開しやすい。
- **まちづくりへの波及効果**： 学校を核として、コミュニティ施設や保育施設などを集積させることで、村の中心地の活性化や定住促進、持続可能な村づくり（コンパクトシティ化）に寄与する。
- **防災拠点**： 災害時において、伊保内地区住民の身近な避難所としての機能が期待できる。

##### 【課題点】

- **用地取得のリスク**： 用地買収（農地転用含む）に多額の費用と期間を要する懸念がある。地権者の合意形成や法的手続きが難航した場合、開校時期の遅延や計画の頓挫のリスクがある。
- **農地の転用**： 建設候補地として優良農地（水田等）が含まれる場合、農業振興の観点からの調整が必要となる。
- **地盤のリスク**： 水田や湿地への建設は、地盤沈下や不同沈下のリスクや、高湿度による建物への影響に不安がある。

## 4. 付帯意見（要望事項）

建設用地がいずれの場所に決定した場合でも、以下の事項について十分な配慮と対策を講じることを要望します。

### 1. 安全・安心な通学手段の確保

- スクールバスの運行本数の増加やルート最適化、バス停の配置など、児童生徒の負担軽減と利便性向上を図ること。
- 徒歩通学路における歩道の整備や除雪体制の強化など、安全確保に万全を期すこと。

### 2. 跡地利用の明確化

- 移転により廃校となる既存校舎（特に現九戸小学校や九戸中学校）の跡地については、放置することなく、地域活性化や防災拠点として有効活用する計画を早期に策定すること。

### 3. 用地取得に関する迅速な対応（伊保内地区の場合）

- 伊保内地区を選定する場合は、用地取得が最大の懸念事項であるため、村の総力を挙げて早期の交渉・手続き着手に取り組むこと。

### 4. 今回必ず学校整備を実現してほしいという要望は委員全員の意見

添付資料

会議録（第1回委員会から第6回委員会）

会議資料